

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 10 月 17 日 8:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 40,000～49,000 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 40,000～47,200 ドル
(S&P500) 5000～6800

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 (ナスダック 100) 21,000～25,200
(ナスダック総合) 19,000～23,200

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 130.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 95.000～102.000

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

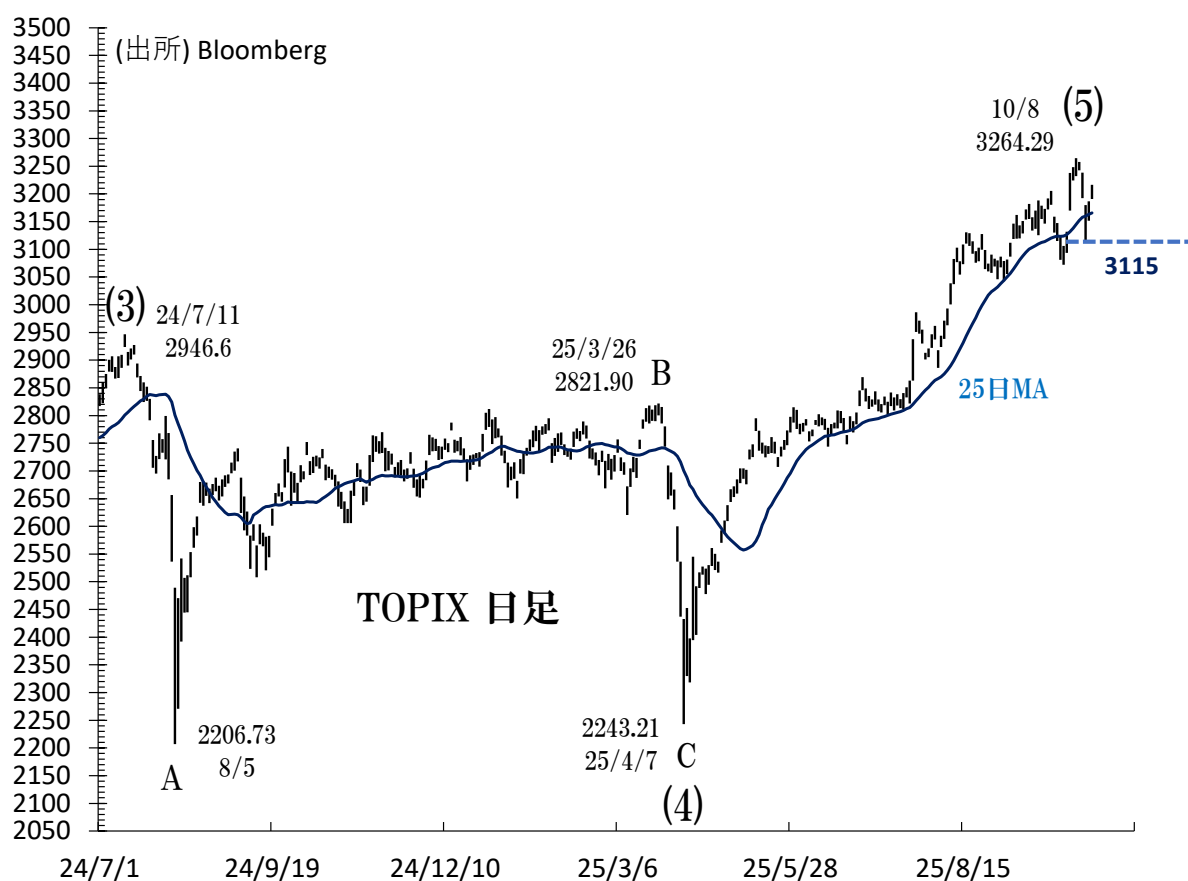
今年 4 月 7 日安値(30,792.74 円)からインターミディエイト級第(5)波の上昇にあり、この第(5)波完成を以て、コロナショック底(16,358.19 円、20 年 3 月)からのプライマリー第③波は完成します。

「9～10 月に日経平均が 4 万 5000 円～4 万 9000 円」という筆者の予想は十分に達成されました。
波動構成上からも、**強気相場は最終局面**にあります。

4 月 7 日週から 27 週が経過しました。週次トレンドは半年程度で一巡することが珍しくありません。ここからすると、**第③波天井は 10 月中に付ける可能性があります。**

10 月 9 日の高値(48,597 円)は、フィボナッチ比率からの目標価格のひとつ[48,568 円]を達成するものであり、第③波天井の有力な候補といえそうです。

先週は 21 年 2 月高値以来の上チャネルライン水準[算術尺度・46,711 円]・[対数尺度・47,660 円]を、明確に抜けていますが、これは強気相場の最後を飾るスローオーバー(throw-over)かもしれません。



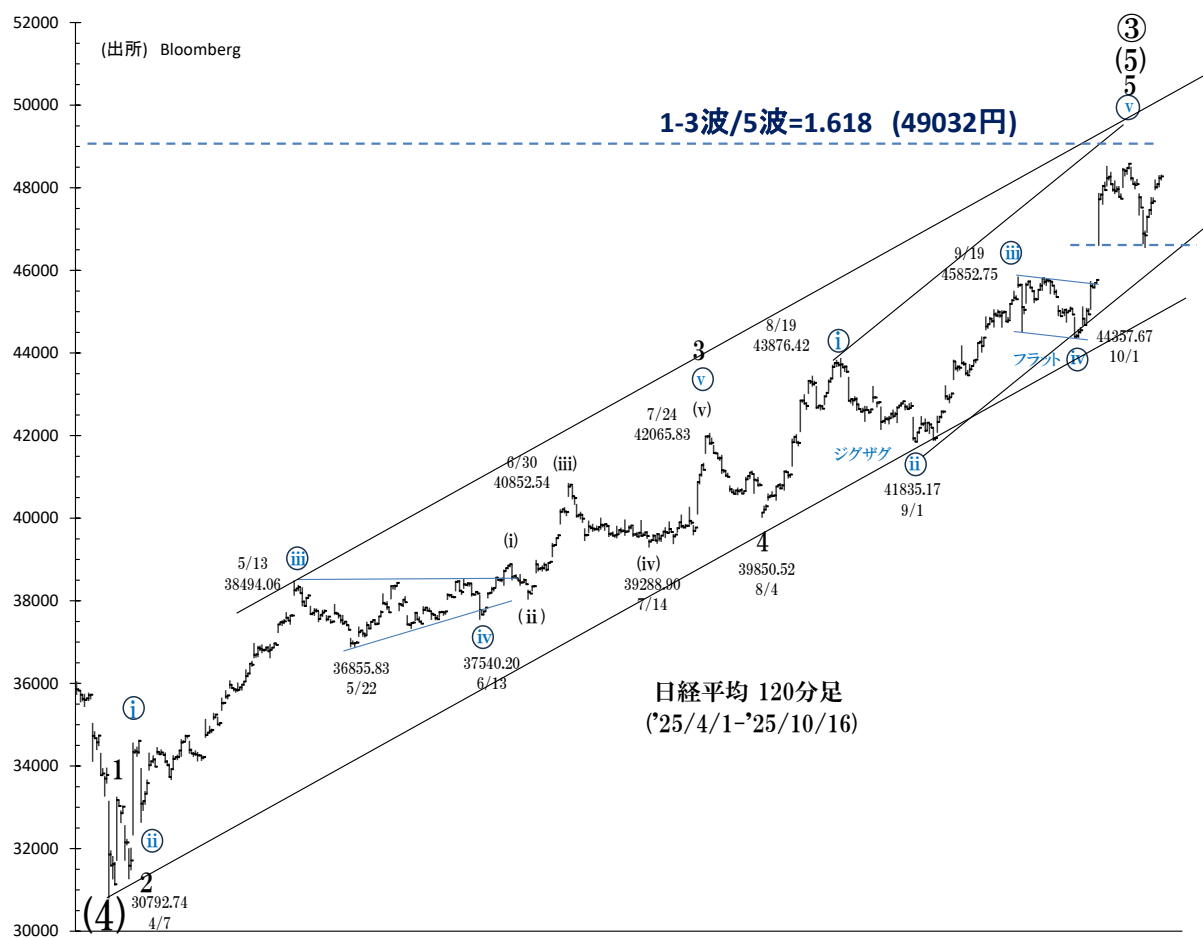
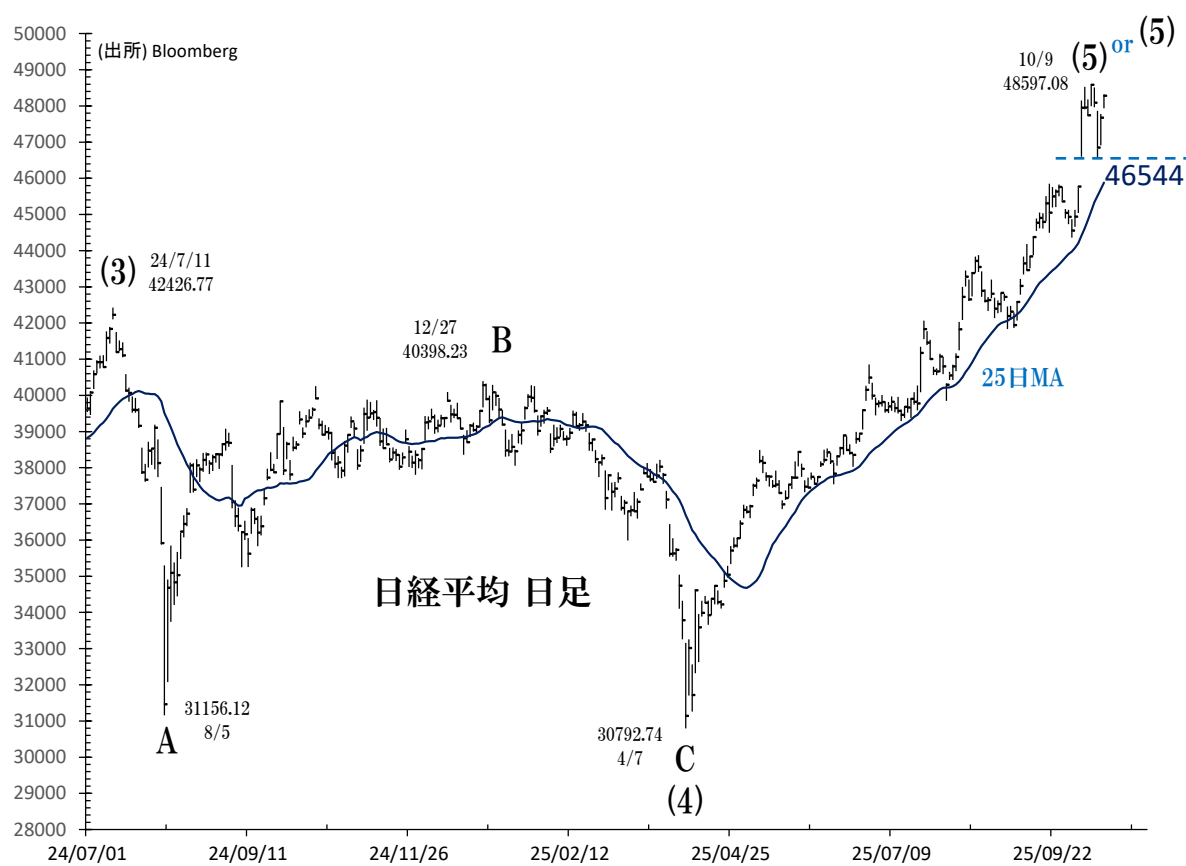
[TOPIX]

3264(10/8 高値)が、4 月以来のラリー終点かを見極める局面を迎えています。

短期的には 3115(10/14 安値)が維持されるか否かが重要です。3115 を終値で下回ると、第(5)波は既に天井を打ち、調整局面に入った可能性が高いでしょう。

一方 3115 を維持する限り最高値を更新する可能性は残ります。その際の上値目標は **[3323]**です。

[3323]…20 年 3 月安値から 24 年 7 月高値までの上昇幅、すなわち第(1)波～第(3)波のネット上昇幅と、25 年 4 月からの第(5)波上昇幅が、「1 : 0.618」になる水準



[日経平均]

39,850 円(8/4 安値) 以来の上昇はマイナー級・第 5 波です。さらに、44,357 円(10/1 安値) からの上昇は第 5 波中マル v 波です。

フィボナッチ比率などから得られる目標価格は、**[48,568 円](達成)****[48,896 円]****[48,964 円]**
[49,032 円]**[49,074 円]**などで、4 万 9000 円処に節目が収束していることが目を引きます。

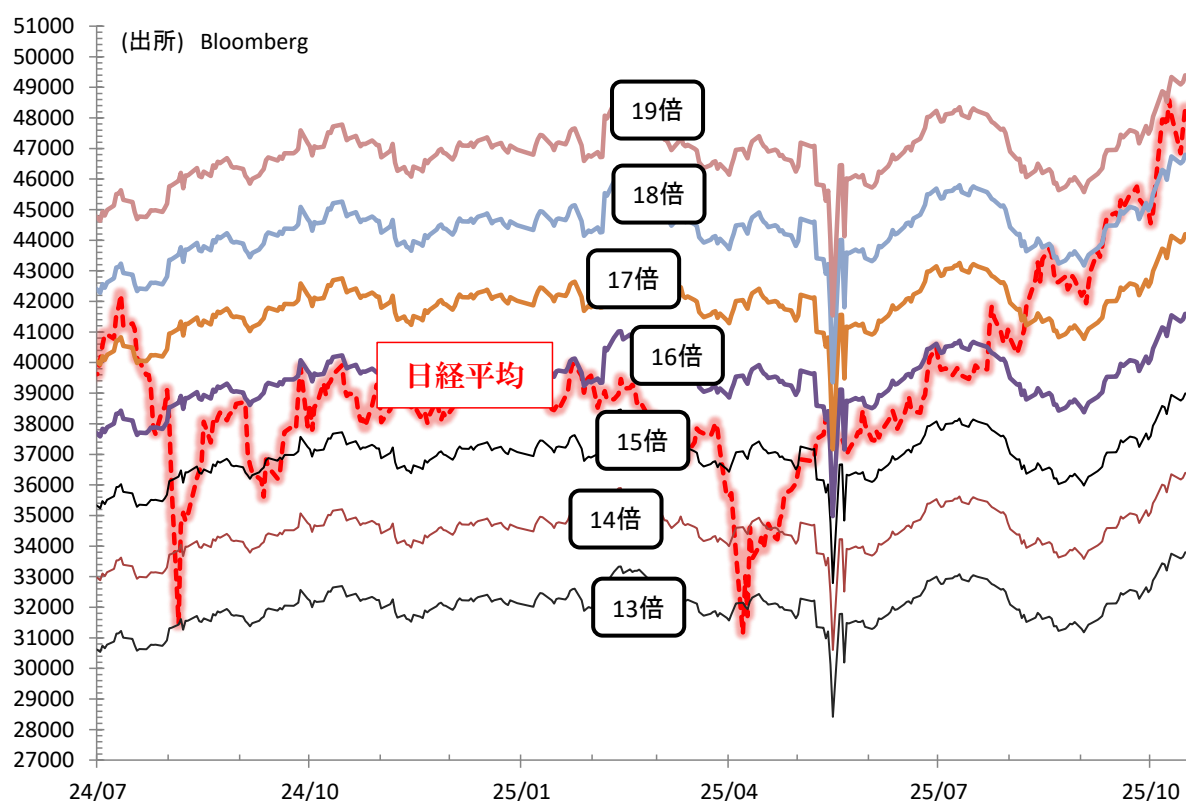
今後 46,544 円(10/14 安値)を維持する限り、4 万 9000 円処を目指す流れは続きそうです。
その反面、46,544 円を終値で下回ると、強気相場の終了および調整局面入りが示唆されます。

一握りの銘柄が日経平均をけん引する状況は続き、10 月 16 日の日経平均の上げ幅(606 円)の内、458 円分は 2 銘柄(ソフトバンク G と東京エレクトロン)によるものでした。このような物色の極端な偏りは、強気相場の最終局面にみられる特徴のひとつです。

[予想 PER 別の日経平均水準]

10 月 16 日の日経平均予想 PER は 18.57 倍・予想 EPS は 2599 円。

予想 EPS は過去最高を更新しました。



NY ダウ・S&P500



【NY ダウ日足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

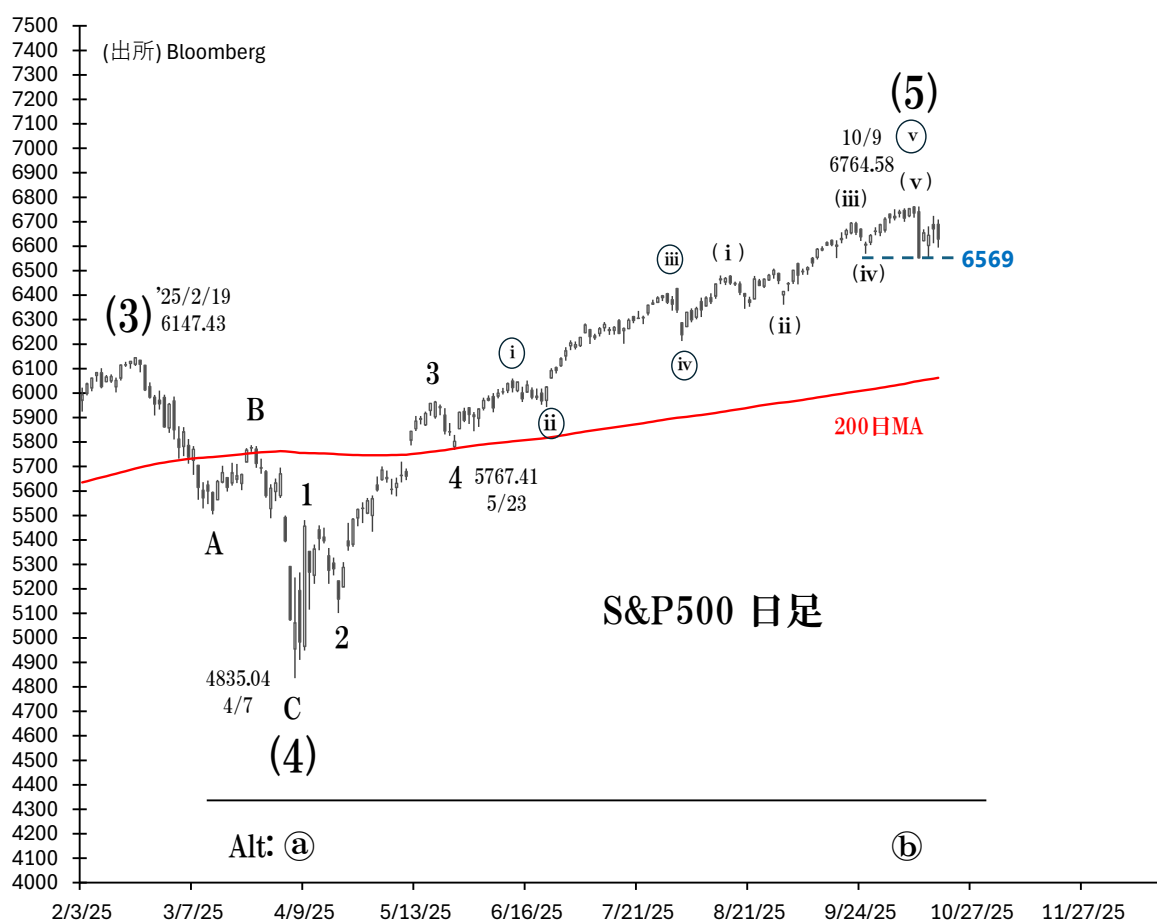
22 年 10 月安値(28,660 ドル)からの上昇は、プライマリー級の第⑤波です。今年 4 月安値からの上昇はインターミディエイト級第(5)波に当たり、それを以て第⑤波は終了します。

第⑤波完了後に訪れる弱気相場は、控えめにみても高値から 20% 安となるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「ランニング・トライアングル」における⑥波とカウントされます。このシナリオでは、近々訪れるであろう下げ局面でも 4 月安値(36,611 ドル)は維持されるでしょう。その後 1~2 年程度のもみ合いが続いた後に、新たな高値へ向かう展開があるでしょう。

NY ダウは 10 月 3 日に日中高値の 47,049 ドルを付けましたが、S&P500 の最高値は 10 月 9 日、ナスダック 100 のそれは 10 日です。これら **主要指数間の「未確認」**は米国株相場が重要な転換点を迎えたことを示唆しています。



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

今年5月安値(5767)からの上昇第5波は延長し、第5波中マルv波も延長を起こしています(5th wave extension of 5th wave extension)。しかし、それも最終局面とみられます。

実際、6764(10/9 高値)でピークアウトの可能性もあり、足元はその可否を見極める局面です。

今後 6569 を終値で下回ると弱気トリガー、大きな調整入りが示唆されます。

【S&P500 長期エリオット波動分析】

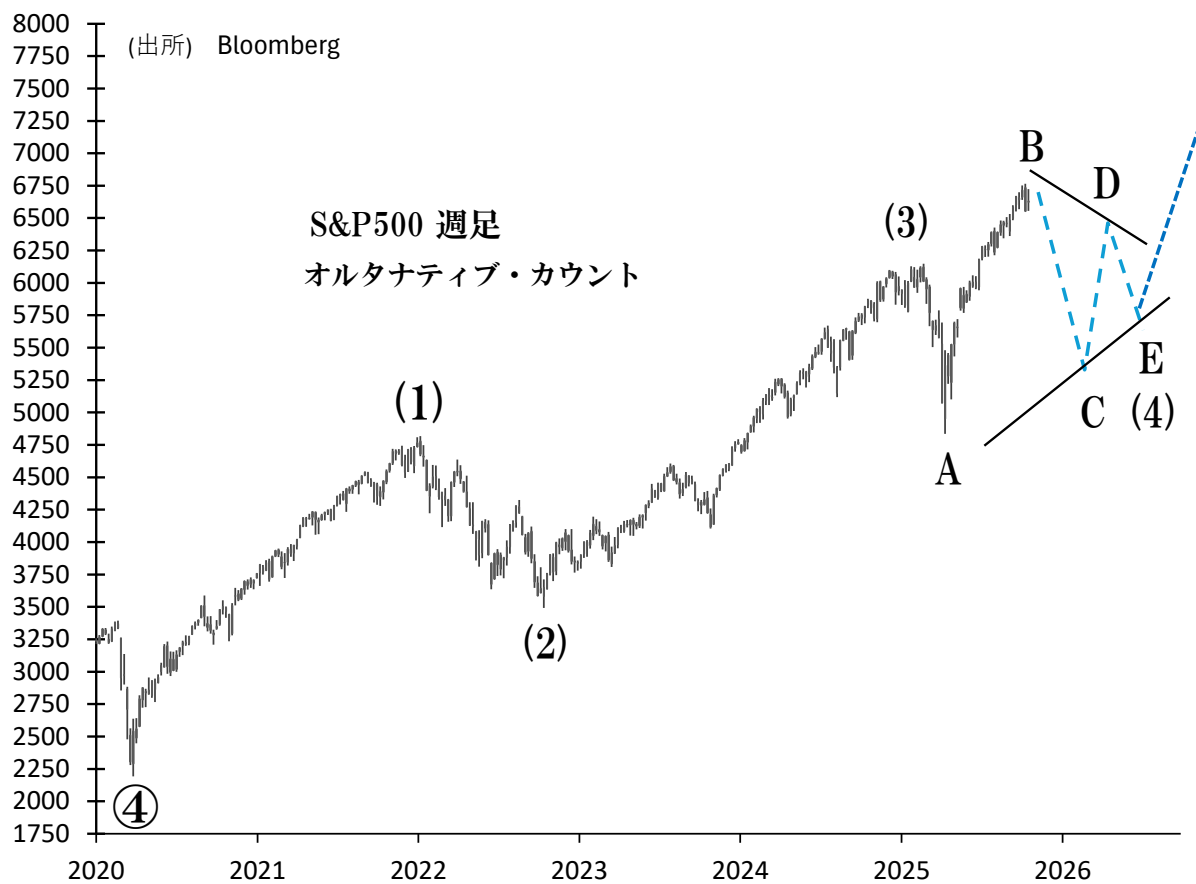
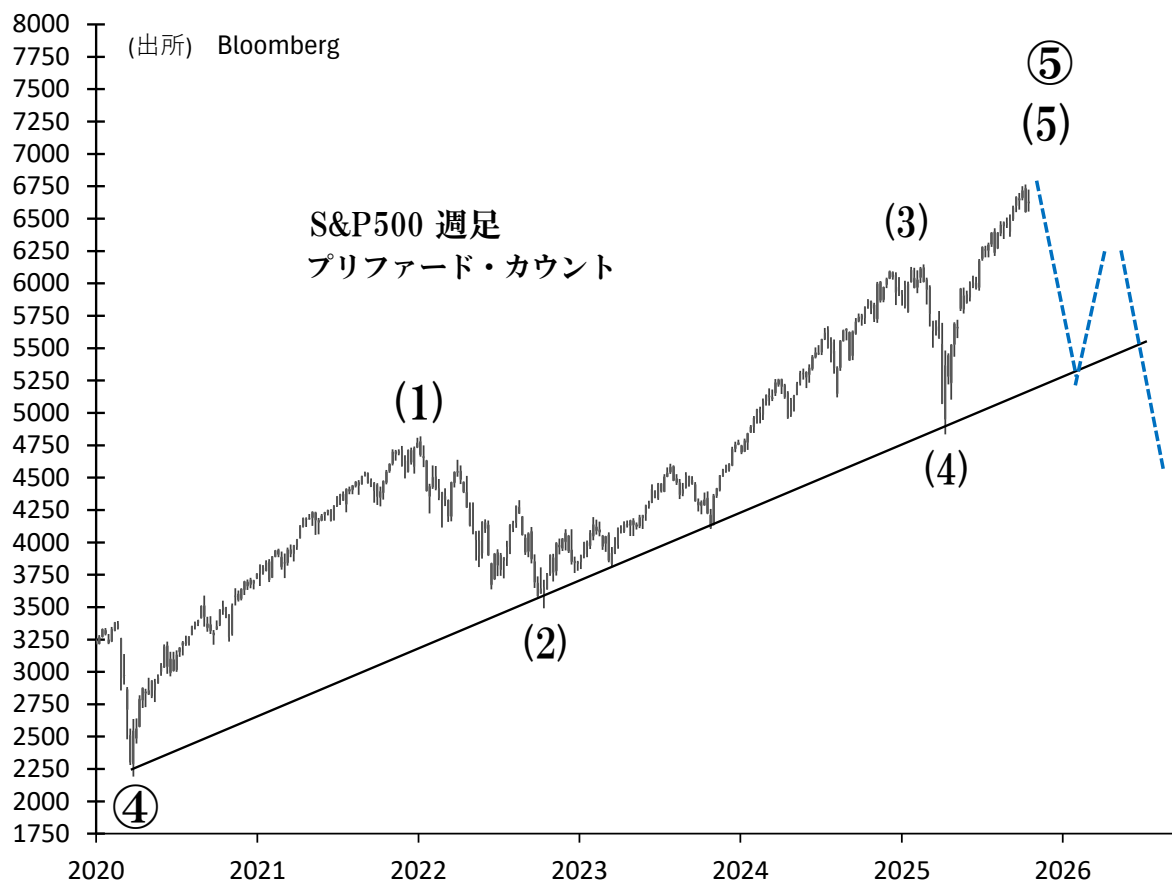
（プリファード・カウント）

4月安値(4835)からの上昇は、インターミディエイト級第5波に位置付けられ、それが終わると長期にわたる調整スタートとなります。それは4月安値を大きく下回ることが予想されます。

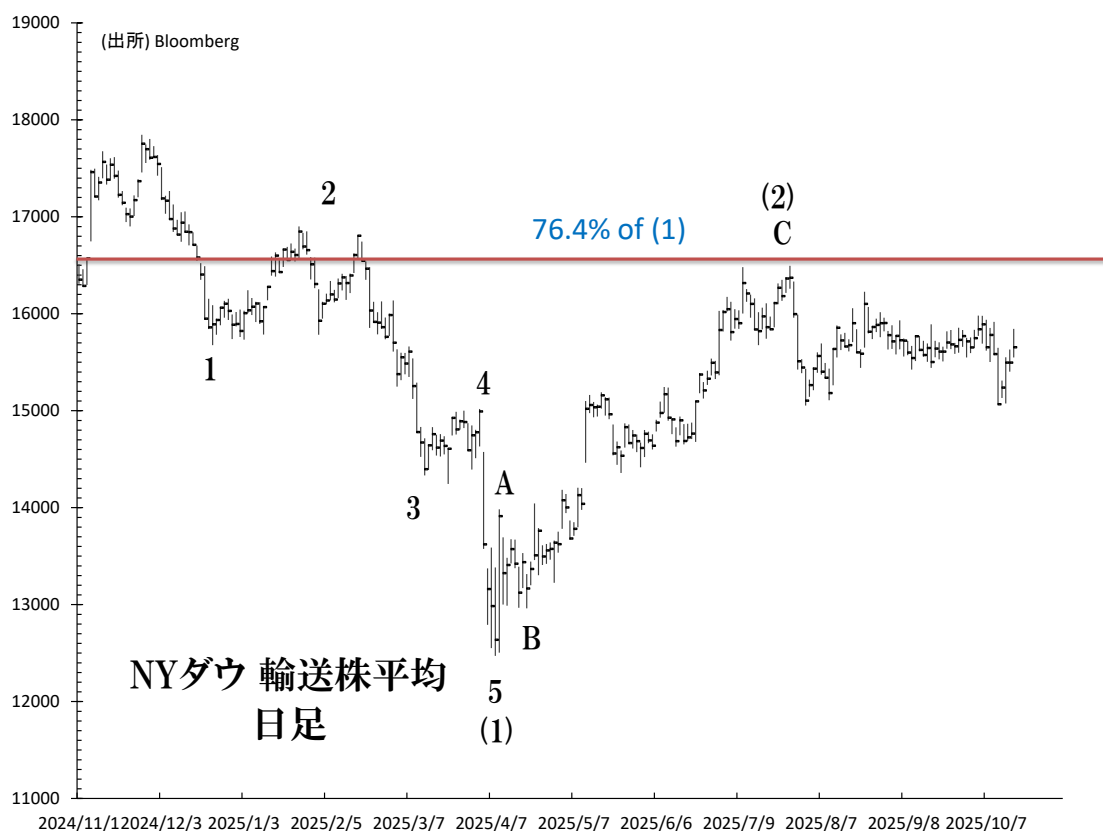
（オルタナティブ・カウント）

4月からの上昇は、トライアングル中⑥波のリバウンドに位置付けられます。

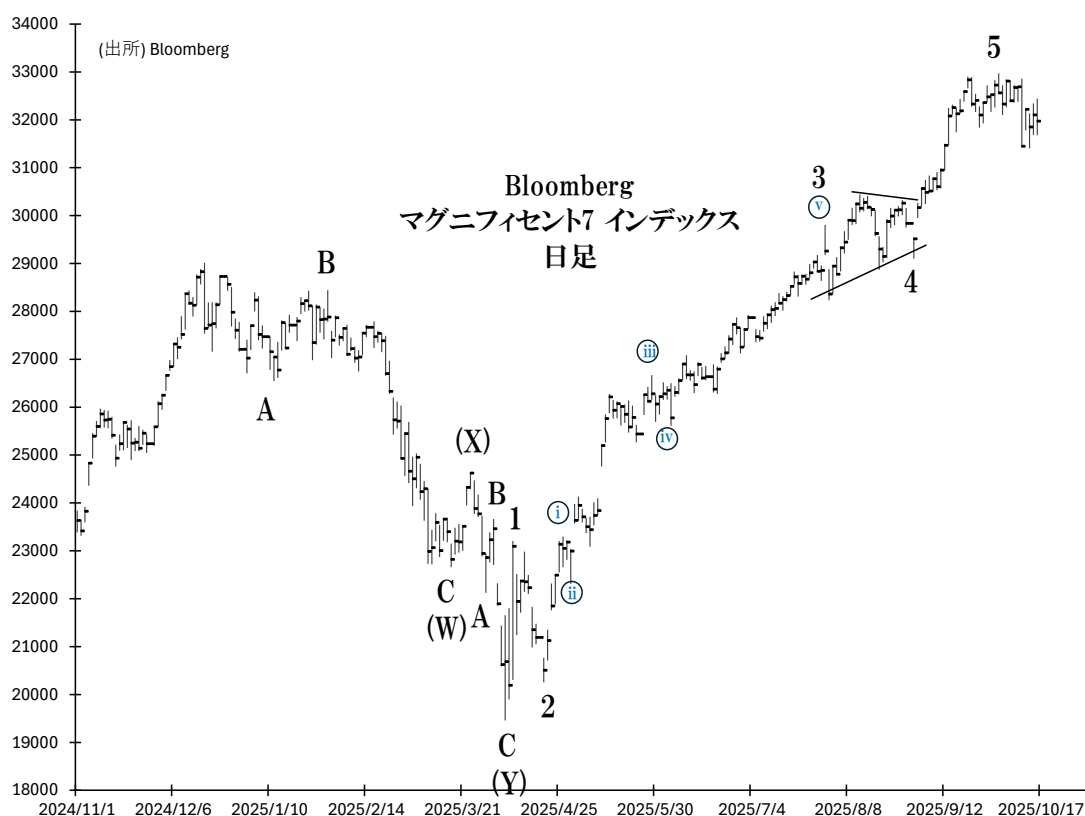
近々⑥波の下げがスタートし、それは②波(2月～4月)下げ幅に対し62%～66%の大きさ(813～866ポイント)になるでしょう。この⑥波によりS&P500は、5400を下回る展開になりそうです。



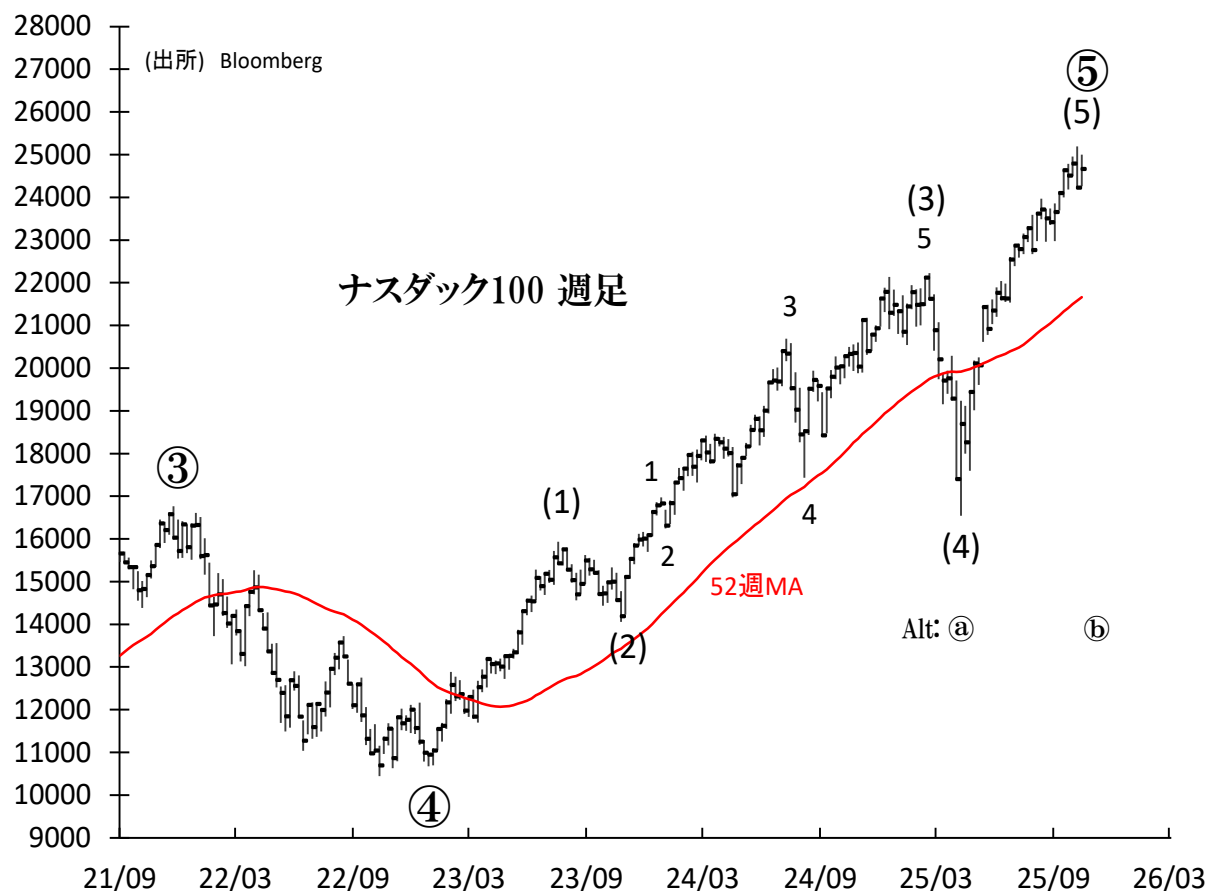
[ダウ輸送株平均] ダウ工業株平均に先んじ調整スタートか



[マグニフィセント7] 4月からの5波構成による上昇は完了か



ナスダック



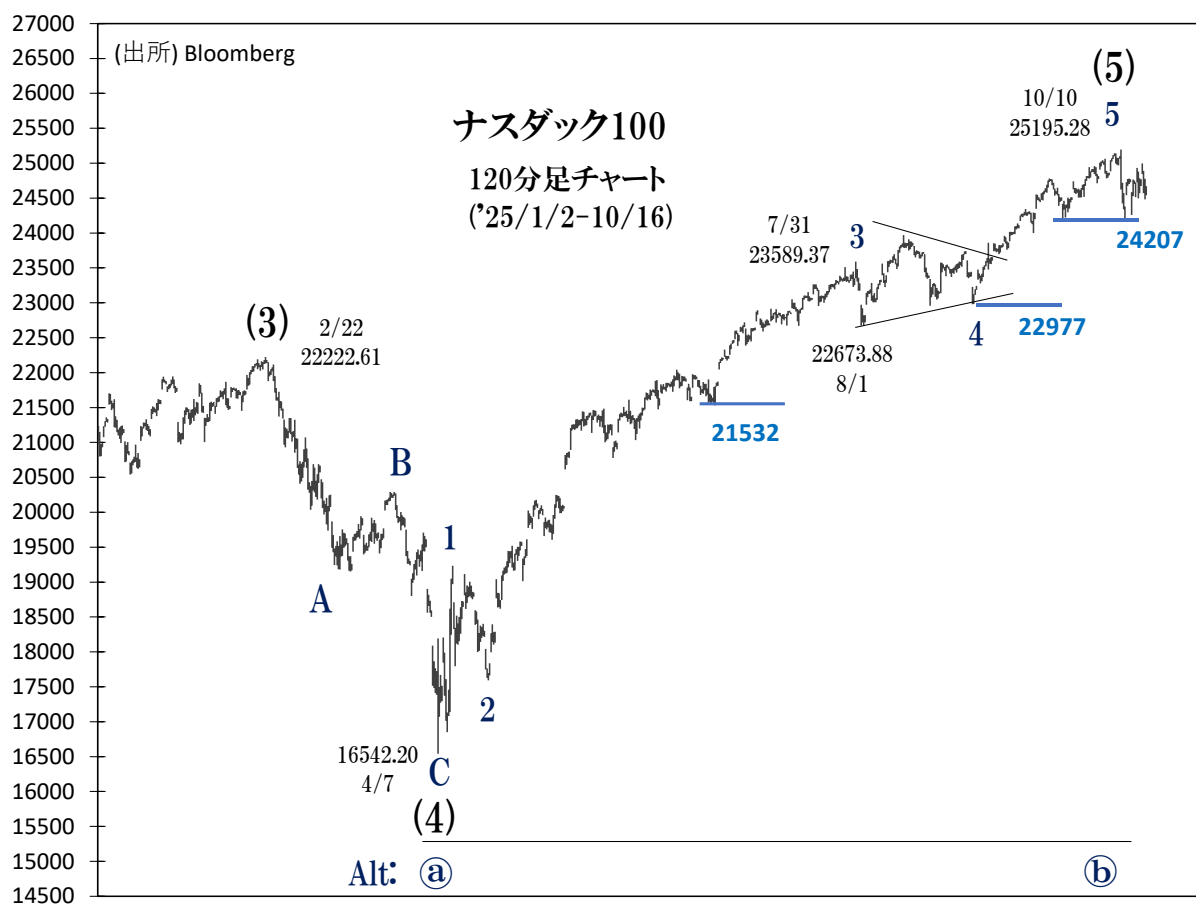
【ナスダック 100 週足 エリオット波動分析】

(プリファード・カウント)

4 月安値(16,542)からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波の上昇に相当するとみられ、それはいつ終わってもおかしくありません。もう間もなく調整局面が始まるとみられますが、それは数年間ターム続く、長く大きなものになるでしょう。

(オルタナティブ・カウント)

4 月からの上昇は「(ランニング)トライアングル」中 B 波に当たります。これは S&P500 のオルタナティブ・カウントと同様であり、遠からず C 波の下落に入る見通しです。これによると今後の調整規模は、想定されるシナリオではもっとも小さいと想定されます。それでも C 波の下げ幅は A 波のそれに対し 62%~66% となり、B 波の高値からは 3500~3750 ポイントの下げになるでしょう。



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

4 月安値 16,542 からの上昇は、インターミディエイト級第(5)波か、第(4)波「トライアングル」中⑥波とみられます。

22,977(9/2 安値)からのマイナー級第 5 波は、25,195(10/10 高値)で完成したかもしれません。

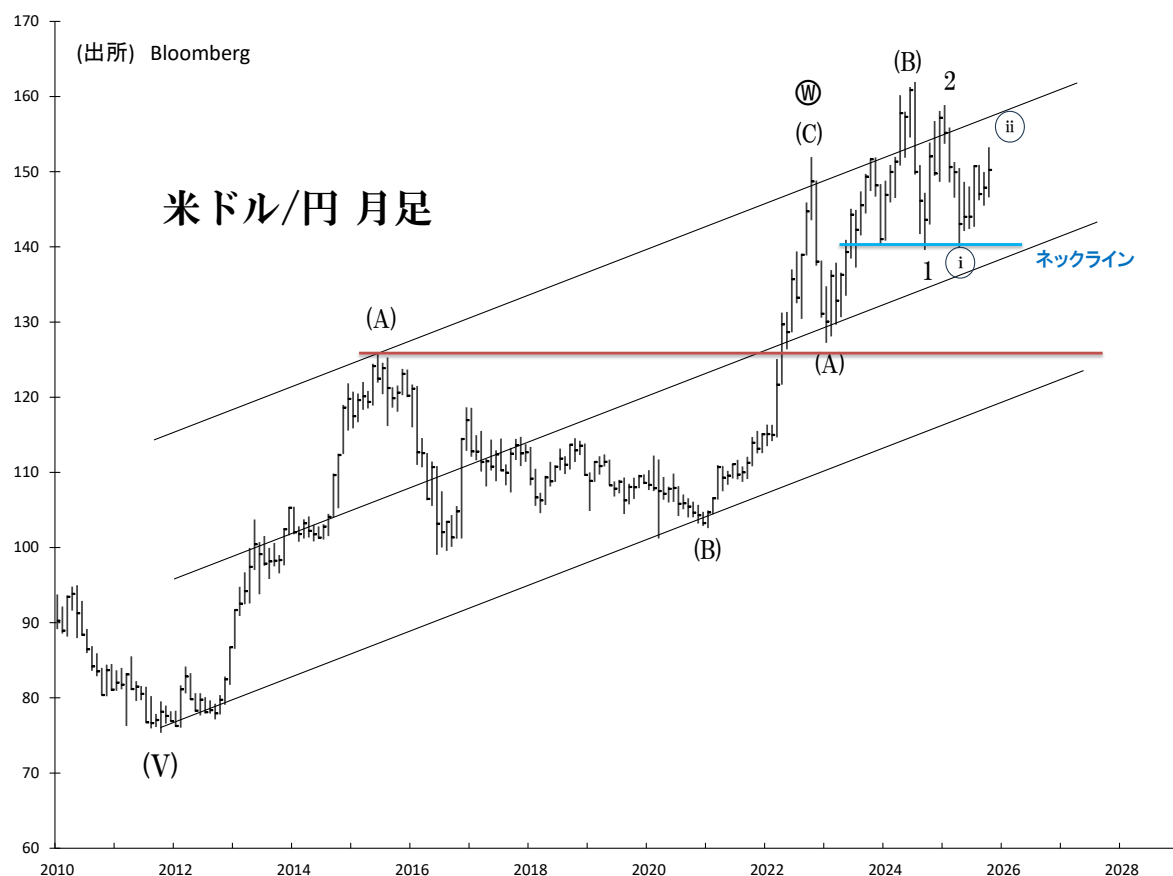
24,207(10/10 安値)を終値で下回ると、ミニ・ヘッド・アンド・ショルダーズのネックラインから下放れ開始となります。それは第 5 波終了の最初のシグナル点灯になるでしょう。

この場合、まずは 50 日 MA(5 月以降のサポートライン)を目指すと思われます。現在 50 日 MA の水準は 24,078 です(10/16 終値時点)。

もちろん 50 日 MA の水準は短期的なサポートに過ぎません。

ひとたび調整入りとなれば、早々に 2 万 3000 水準を試す展開が想定されます。

米ドル/円

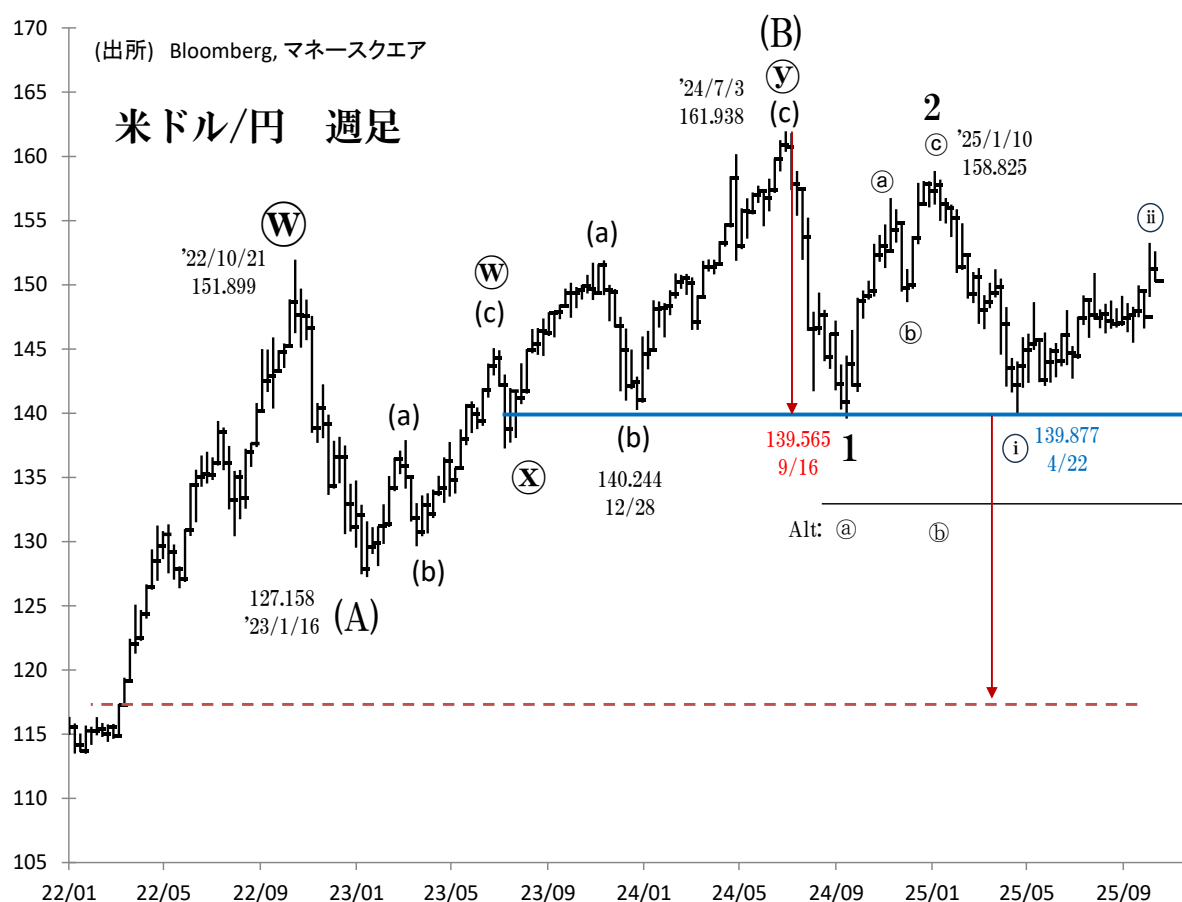


【月足・エリオット波動分析】

16 年半サイクルによれば、米ドル/円(ドル/円)は 2028 年 4 月頃まで「円高の時間帯」が続きます。この時間帯においてドル/円の上値は抑えられるでしょう。筆者は 28 年 4 月頃までのどこかの時点で、1 ドル = 125 円 ~ 120 円へのドル安・円高になる可能性をみています。

4 月下旬からドル/円はじり高が続いてきましたが、それも終わったか終わりつつあります。これからはドル安・円高トレンドがいつ再開してもおかしくありません。

おそらく 26 年前半にもドル/円は、139 円処のネックラインを明確に割り込むでしょう。それをきっかけに、「サード・オブ・サード」の強いドル安・円高トレンドが鮮明になるでしょう。



【週足 エリオット波動分析】

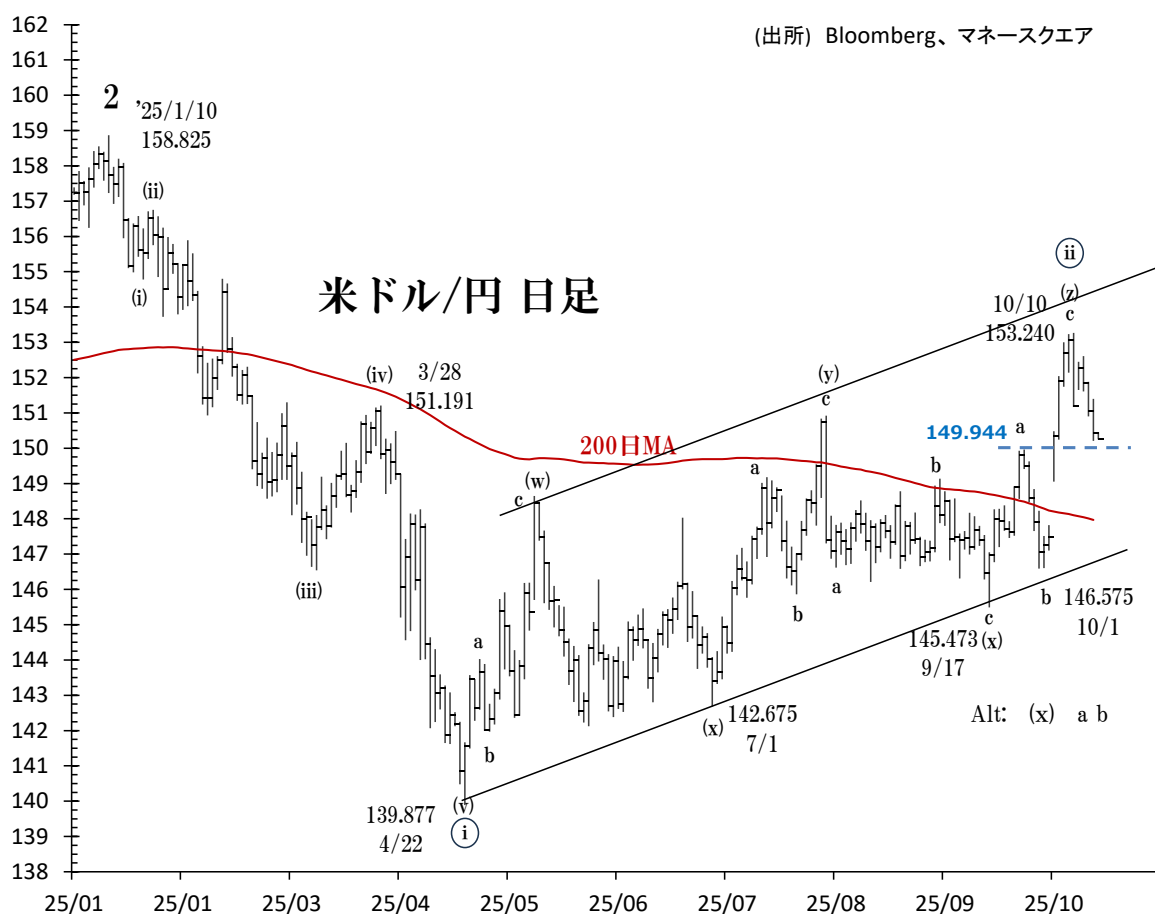
今年 1 月 (158.825 円) からは第 3 波によるドル安・円高に当たります。

この第 3 波を構成する副次波のうち、139.877 円(4/22)からの上昇は、マル ii 波に相当します。

これまで 1 ドル=151 円～154 円を目指す展開を想定していました。10 月 10 日に一時 153.240 円まで上昇し、従来の予想はほぼ達成されました。

ここからは、マル ii 波完成後のマル iii 波による下落(ドル安・円高)に対する備えが必要になるでしょう。

第 1 波と第 3 波が黄金分割(1:1.618)比率関係になると仮定すれば、[122.625 円]という目標値が得られます。ヘッド・アンド・ショルダーズに基づく垂直目標値は 1 ドル=120 円割れです。



【日足 エリオット波動分析】

4 月からのマル ii 波によるドル高・円安「トリプル・ジグザグ(w)-(x)-(y)-(x)-(z)」は、153.240 円(10/10)で—1 月からの円高の 76.4%戻り水準[154.353 円]には少し足りませんが—終了した可能性があります。

今後 149.944 円を NY 市場の終値で下回ると、マル ii 波の完了及び、マル iii 波によるドル安・円高開始の可能性が高まるでしょう。そうなれば当面は 200 日 MA の 148 円処、さらに 146.575 円(10/1)を試す展開となりそうです。

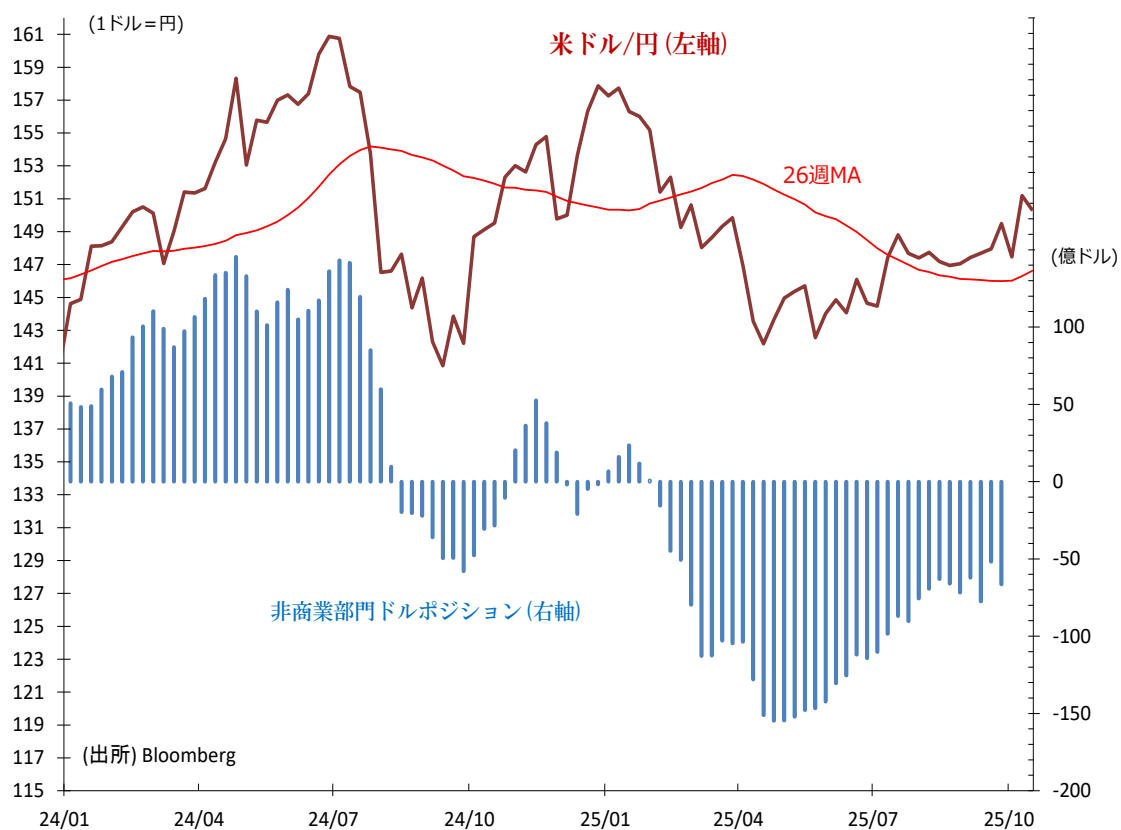
オルタナティブ・カウントは、150.869 円(8/1)からの(x)波「フラット」が 146.575 円(10/1)で完成し、足元の下げは(z)-b 波に相当する、というものです。この見方によれば 149.944 円は維持され、(z)-c 波により 153.240 円を上回る展開になるでしょう。しかし、それを以てマル ii 波は完成するでしょう。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[139.638 円]です。

投機筋の円買い持ち高が拡大(2025 年 9 月 23 日時点)

IMM 通貨先物市場では、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高が前週の 51.9 億ドルから 66.47 億ドルへ拡大しました。





そうであれば、当面は C 波のドル安に対する 38.2%戻り水準[101.550]を目指すでしょう。

筆者は、ドル安⑤波は短くとも 2028 年頃まで続くとみています。



※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社は、その正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
